

審査の結果の要旨

論文提出者氏名 古川 勇気

古川勇気氏の博士論文「ペルー、カハマルカ県山村における社会的振る舞いと利益追求一都市向けチーズを生産販売する農民の計算と配慮から一」は、ペルー北部カハマルカ県の山村でチーズを生産販売する農民の経済実践を、自身のフィールドワークの成果に基づいて民族誌的に論じたものである。全 8 章より構成される本論文は、異なったチーズ流通網に位置づけられる二つの村を対比的に取り上げ、村内外の様々なアクターとの関係を含めて分析することにより、チーズを生産販売する農民が日々対処している、金銭的な損得計算と社会内での配慮とが重なり合う現代的な状況を立体的に明らかにしている。

序論にあたる第 1 章では、ラテンアメリカ農民研究及び経済人類学の展開を概観した上で、近年のカハマルカ県山村のチーズを生産する農民たちの経済実践が、先行研究の議論とは相対的に異なる形で村内の社会的な領域と市場経済の双方に結びつくさまを、計算と配慮という視点から論じる、という本論文の課題が設定される。

第 I 部では、本論文の民族誌的背景が提示される。第 2 章ではカハマルカ県の酪農業と、複数のチーズ流通網の概略が、第 3 章ではチーズ生産者の日常の消費と、周辺農民との社会関係づくりのあり方が民族誌的に示される。

第 II 部では、チーズを生産販売する農民と、村内の他の農民との関係が分析される。第 4 章では、チャンタ・アルタ村の事例に基づき、生乳を売るか、どのタイプのチーズを製造販売するかといった、酪農を行う農民たちの選択とその背景が、彼らの人生経験との関係で多面的に分析される。第 5 章では、ワルガヨック山村の事例に基づき、定常的な生乳の確保の必要性や気前の良さを重視する文化的慣習が存在する中で、チーズ生産者たちが日々作り上げる他の農民との関係の内実が、そこで働く計算や配慮との関係で分析される。

第 III 部の焦点は、チーズを生産する農民と村外のアクターとの関係にある。第 6 章では、チャンタ・アルタ村の生チーズ市場におけるチーズ生産者と仲買人の関係に焦点が当てられる。両者の関係が、馴染み同士の固定的なもの、その時々々の価格に基づく短期的なものとの間で揺れ動く状況が、取引されるチーズの性質と、生産者・仲買人双方の短期的長期的制約要因とを踏まえて分析される。第 7 章では、ワルガヨック山村における、二重底鍋の導入を柱とする国内 NGO の技術指導、およびその結果が分析される。参加したチーズ生産者たちは、一部は途中離脱し、最後までプログラムを受けた者も、指導された技術を全面的には用いなかった。こうした開発支援者の期待と農民の選択との齟齬の原因と帰結が、開発の「余白」の存在と、個々の農民のそれぞれ異なる広義の計算という観点から論じられる。

終章である第 8 章では、本論文の民族誌的成果が農民の計算と配慮という枠組により統一的に整理された後、近隣農民、仲買人、開発支援者のそれぞれに対する農民の計算実践に

における計算と配慮のあり方の比較検討により、「世帯と市場経済」という枠組では十分に論じることの困難な、近年の農民の経済実践のあり方の全体像が提示される。

本論文の主要な意義は、以下のようにまとめられる。

第一に本論文は、山地に散在する農民の家々を訪問して得た、文字通り足で稼いだデータに基づく生き生きとした民族誌叙述と、異なったチーズ流通網に位置づけられる二つの地域を対比的に扱うという構想により、現代ペルー北部山地の農業及び酪農業を主生業とする村落社会の今日的な状況を、詳細かつ立体的に描くことに成功している。

第二に本論文は、村落共同体的結束の弱い村々における酪農業及びチーズ生産に着目し、それを主に民族誌的手法を用いて調査したことにより、従来注目されてきた労働交換や儀礼よりも日常的な、貨幣を媒介とした村内の関係性の実態を明らかにした。

第三に、本論文における仲買人や開発支援者等、村外へと連なるアクターとの関係に関する議論は、数字で計算出来るものと出来ないものを含む農民の計算実践が、当該農村の変化する今日的状況を的確に捉えた、多元的で柔軟性に富むものであることを具体的に明らかにした。

審査委員からは、ラテンアメリカの「家」経済や経済人類学上の主要な論争に関する先行研究の整理がやや一面的ではないか、国家の農業・畜産政策の変遷や政治・経済的混乱の記憶等、幾つかの重要な要因が十分に考慮されていないのではないか、また、さらにポリティカルエコノミー寄りの分析も可能だったのではないか、といった疑問や批判が提起された。しかし、これらの疑問や批判はあくまでも本論文の達成を前提としてその先にある問題を指摘したものであり、本論文の基本的価値を損なうものでないことが、審査委員全員により確認された。

以上より、本審査委員会は、古川勇氣氏の論文が博士（学術）の学位を授与するにふさわしいものと認定する。